

美濃陶磁歴史館だより

美濃陶磁歴史館
☎551245

企画展 「まさるときつねとこま犬」
2月24日(日)まで
同時開催 「土岐市文化財展Part1 文化財でたどる美濃焼の歴史」

土岐市文化財のやきもの

江戸時代、やきものを寺社へ奉納するのは陶磁器産地ならではの習慣でした。市内の寺社には、先月号で紹介した陶製のこま犬や神猿や神狐以外にも奉納された陶製香炉や高坏などが残されており、市の文化財に指定されている物もあります。



香炉
土岐市指定文化財 崇禅寺(妻木町)蔵
底裏に彫られた銘文から、1648(正保5)年に妻木の陶祖とされる加藤太郎右衛門景重が制作し、崇禅寺地蔵堂に奉納したものと分かります。



高坏
(右) 土岐市指定文化財 八王子神社(鶴里町)蔵
(左) 白鳥神社(鶴里町)蔵
「摺絵」という技法で松や菊が給付けられています。1995(平成7)年に八王子神社の高坏が文化財指定された後に、白鳥神社で同形状の高坏が見つかりました。元は一对で奉納された物と考えられます。

カガクへのトビラ

核融合科学研究所 / 総合研究大学院大学 (☎552222)

100億年輝き続ける太陽～そのエネルギーの源はなに？

明けましておめでとうございます。今年から自然科学研究機構・核融合科学研究所の研究者が、科学の面白さや不思議をお伝えるコーナーが始まります。ご期待ください。今回は、空に輝く太陽のお話をします。

皆さんは初日の出をご覧になりましたか？神々しい太陽を眺めると、拝みたくくなりますよね。ところで、太陽の光や熱といったエネルギーは、どうやって生まれているかご存じですか？

主な燃料が石炭だった19世紀後半、太陽では石炭が燃えていると考えられていました。しかし、石炭が燃えていると仮定して太陽の寿命を計算してみると、数千年で燃え尽きてしまうことが判明。地球上に人類が登場してから既に数万年たっていることを考えると、太陽の寿命がそんなに短いはずはありません。当時は、太陽のエネルギー源が何なのかは大きな謎でした。

20世紀に入ると、1905年にアインシュタイン博士が質量(物の重さ)はエネルギーに変えられることを発見しました。そして1939年、ついにハンス・ベーク博士によって、太陽の中では核融合反応によって4つの水素原子からヘリウム原子が作られ、そのときに軽くなった質量分がエネルギーに変換され、太陽のエネルギーの源になっていることが分かりました。たった80年前のことです。

太陽は、誕生から既に46億年にわたってエネルギーを放出し続けていることが分かっています。つまり、今も太陽は1秒間に約50億キログラムずつ軽くなっているのです。えっ？消えてなくならないかって？大丈夫ですよ！太陽は想像以上に巨大なので、あと50億年以上にわたって輝き続けることができるのです。

